

# 平成28年度 事業報告書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

学校法人 群馬育英学園

# I 法人の概要

## 1. 法人名称・理事長名・所在地

- (1) 法人名称 学校法人 群馬育英学園
- (2) 理事長名 中村 義寛
- (3) 所在地 群馬県高崎市京目町1656番地1

## 2. 建学の精神等

### 〈育英短期大学〉

#### (1) 建学の精神

ICの道德標準に基づき、「公正」、「純真」、「奉仕」、「友愛」を建学の精神とし、その道德理念を培い、常に国際視野に立って、世界平和と社会福祉に貢献できる人格の錬成を図ることを教育の使命とする。

#### (2) 教育の理念・目標

「教育は、学生と教職員の信頼関係の構築を基礎とし、両者が一体となって創り上げるもの」を教育の理念としている。また、大学全体の教育目標としては、「学生中心の教育を目指すこと」とし、保育学科においては、優れた幼児教育者の育成を目指し、現代コミュニケーション学科においては人間理解と国際的視野に立って高い教養と専門的な知識技術を習得させ、社会の各分野で活躍できる人材の育成を目指す。この教育目標を具現化するため次の施策を推進する。

- ①高い専門性と特徴を持った個性のある人間性豊かな学生の育成
- ②多彩かつ質の高いカリキュラムの提供、学校行事とクラブ活動の充実化
- ③信頼される大学づくりと満足度の高い学生生活の支援
- ④就職率100%の実現に向けた教職員一丸となった指導・支援体制づくり

### 〈前橋育英高等学校〉

#### (1) 建学の精神

「正直・純潔・無私・愛」の道義標準に基づく道德理念を培い、知育・徳育・体育を以て人格の陶冶と錬成をはかり、つねに国際的視野に立って、世界平和と社会の福祉に貢献できる人材の育成を期すること。

#### (2) 目指す学校生徒の学びと進化（成長）にとって何が必要かを第一に考える「スチューデント・ファースト」の学校

広い視野と高い志、道義心と行動力を兼ね備えた人間性豊かな人材を育成する

生徒一人ひとりの個性を尊重し能力を引き出し高めることで、将来どのような社会でも生きていける力を、育てる使命の活力ある魅力あふれる高等学校

#### (3) 教育活動の目標「品格 (Morality) と教養 (Intelligence)」

自己の独立を高めるための、基礎基本となる確かな学力（教養）の向上に努める

社会に適応し他者を思い遣るために、規律を重んじ規範意識（品格）を高める

##### ①高い志とやり抜く力を支援

ア. 入学後の早い時期から日常の学習習慣を定着させ、自ら学ぶ意欲を引き出す

イ. 進路目標を明確にすることで、主体的に学習する姿勢を育成し支援する

ウ. 三年間を見通した段階的、系統的な学習マネジメントを構築する

##### ②部活動と課外活動の振興

ア. 強化指定クラブだけでなく、その他のクラブも活性化し、加入率80%以上をめざす

イ. 運動だけでなく文化クラブや文化的活動の振興を図り、学習との両立を支援する

ウ. 意欲や自主性を発揮させるために、学校行事・生徒会活動への積極参加を奨励する

③社会的自立心の育成

ア. 自立心と社会性の調和のとれた、良識あふれる社会人としての基礎を育成する

イ. 健全な心身の成長と公共心の涵養を促し、自ら考え行動する力を高める

ウ. いじめや人権侵害に当たる事案を一掃する

④保護者・地域との良好な関係

ア. 家庭は生徒の生きる基盤。保護者との信頼関係を強固に構築する。

イ. 日常の教区活動を積極的に情報発信していく

ウ. 地域社会に愛される学校作りを積極的に推進する。

### 3. 学園の沿革

昭和37年12月	前橋育英高等学校（全日制普通科）認可（昭和37年12月22日）
昭和38年4月	前橋育英高等学校（前橋市朝日が丘町13番地）開校 （昭和38年4月12日） 全日制課程（男子普通高校）
昭和43年4月	前橋育英高等学校 工芸科（定時制）設置認可
昭和45年1月	各種学校前橋保育専門学校（幼稚園教員養成機関）指定認可
昭和45年4月	各種学校前橋保育専門学校 開校（昭和45年4月23日） 前橋育英高等学校 全日制課程 保育科（女子）設置
昭和46年3月	前橋育英高等学校 工芸科（定時制）募集停止
昭和48年2月	前橋保育専門学校（保母養成機関）指定認可
昭和50年3月	前橋保育専門学校認可（指定期間の定めのない教員養成機関）
昭和52年1月	前橋育英学園短期大学 保育学科設置認可
昭和52年4月	前橋育英学園短期大学 保育学科開学（昭和52年4月12日）
昭和53年3月	前橋保育専門学校廃止
昭和58年1月	前橋育英学園短期大学 英語科設置認可
昭和58年3月	前橋育英高等学校 英語科（女子）設置認可
昭和58年4月	前橋育英学園短期大学 英語科設置
昭和59年4月	前橋育英高等学校 体育科（男子）設置（普通科体育コース転換）
昭和62年4月	短期大学の名称を育英短期大学に変更 短期大学の位置変更 （前橋市朝日が丘町13番地 → 高崎市京目町1656番地1）
昭和63年2月	学校法人の名称を群馬育英学園に変更 学校法人の位置変更 （前橋市朝日が丘町13番地 → 高崎市京目町1656番地1）
平成11年3月	前橋育英高等学校 英語科 募集停止
平成13年8月	育英短期大学 現代コミュニケーション学科 設置認可
平成14年2月	育英短期大学 専攻科 設置認可 前橋育英高等学校 英語科 廃止
平成14年4月	育英短期大学 現代コミュニケーション学科 設置 育英短期大学 専攻科 設置
平成15年5月	育英短期大学 英語科 廃止
平成17年3月	育英短期大学 専攻科 募集停止
平成18年3月	育英短期大学 専攻科 廃止
平成21年3月	前橋育英高等学校 体育科 募集停止
平成21年3月	育英短期大学 保育学科 専攻廃止（保育専攻、幼児教育専攻）
平成21年4月	前橋育英高等学校 普通科スポーツ科学コース 設置
平成23年11月	前橋育英高等学校 体育科 廃止

#### 4. 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	学 科 等	開校年月
育英短期大学	保育学科	昭和52年4月
	現代コミュニケーション学科	平成14年4月
前橋育英高等学校	普通科	昭和38年4月
	保育科	昭和45年4月

#### 5. 設置する学校・学科等の入学定員、学生生徒数の状況

##### 〈育英短期大学〉

(平成28年5月現在)

学 科・専 攻		平成26年度	平成27年度	平成28年度
保 育 学 科	(入学定員)	(200)	(240)	(240)
	入学者数	240	234	238
	定員充足率	1.20	0.975	0.992
現代コミュニケーション学科	(入学定員)	(100)	(100)	(100)
	入学者数	91	101	77
	定員充足率	0.91	1.01	0.77
合 計	(入学定員)	(300)	(340)	(340)
	入学者数	331	335	315
	定員充足率	1.10	0.985	0.926

##### 〈前橋育英高等学校〉

(平成28年5月現在)

学 科		平成26年度	平成27年度	平成28年度
普 通 科	(入学定員)	(440)	(440)	(440)
	入学者数	401	493	445
	定員充足率	0.91	1.12	1.03
保 育 科	(入学定員)	( 70)	( 70)	( 70)
	入学者数	98	91	75
	定員充足率	1.40	1.30	1.07
合 計	(入学定員)	(510)	(510)	(510)
	入学者数	499	584	530
	定員充足率	0.98	1.15	1.04

## 6. 設置する学校の進路状況

〈育英短期大学〉

(平成29年3月31日現在)

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
保育学科	卒業者数	219	223	231
	就職・進学希望者数	212	223	223
	進路決定者数	212	223	223
	就職内定者数	210	221	218
	進学内定者数	2	2	5
	進路内定率(%)	100.0	100.0	100.0
現代コミュニケーション学科	卒業者数	95	83	98
	就職・進学希望者数	87	80	89
	進路決定者数	84	78	86
	就職内定者数	82	73	85
	進学内定者数	2	5	1
	進路内定率(%)	96.5	97.5	96.6
合 計	卒業者数	314	306	329
	就職・進学希望者数	299	303	312
	進路決定者数	296	301	309
	就職内定者数	292	294	303
	進学内定者数	4	7	6
	進路内定率(%)	99.0	99.0	99.0

(小数点以下切り捨て)

〈前橋育英高等学校〉

(平成29年3月31日現在)

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
普通科	卒業者数	421	463	389
	国公立大学	41	32	32
	私立大学	224	248	213
	国公立短大	0	0	0
	私立短大	28	31	18
	専門学校	90	84	71
	就職	13	30	24
	その他	25	38	31
保育科	卒業者数	71	82	94
	国公立大学	0	0	0
	私立大学	3	5	11
	国公立短大	0	0	0
	私立短大	55	58	68
	専門学校	11	15	12
	就職	0	3	1
	その他	2	1	2
合 計	卒業者数	492	545	483
	国公立大学	41	32	32
	私立大学	227	253	224
	国公立短大	0	0	0
	私立短大	83	89	86
	専門学校	101	99	83
	就職	13	33	25
	その他	27	39	33

## 7. 役員(理事・監事)の概要 (平成28年5月30日現在)

職名	条項	号	選出条項	氏名
理事 (11人 ~12人)	12	1	1 設立者又は縁故者 (1人~2人)	中村 有三 中村 義寛
			2 設置する学校の長 (2人)	石井 學 竹 渕 敏
			3 評議員の選出 (5人)	高山 昇 佐伯 詔一 中澤 幹夫 小野澤 昇 山田 耕介
			4 学識経験者 (3人)	前田 勇 小野澤正喜 福島 英人
監事 (2人)	15		(2人)	代田 恭之 池島 弘尚

## 8. 評議員の概要 (平成28年10月1日現在)

職名	条項	号	選出条項	氏名
評議員 (23人 ~25人)	24	1	1 学園長 (1)	中村 有三
			2 法人職員 (9人~10人)	石井 學、竹 渕 敏、中澤 幹夫 泉水 清志、山田 耕介、栗名 正光、 星野 利子、金子 雅人、武田 雅彦、 岩川 正典
			3 設置校の卒業生 (2人)	新井 信雄 根岸美智代
			4 学識経験者 (11人~12人)	高山 昇、佐伯 詔一、中村 武、 関根 映一、中島 篤、北條 哲成、 遠山 浩二、石井 晃英、大塚智枝子、 富岡 政明、石井 昌代、高月有記恵

## 9. 職員の概要 (平成28年5月1日現在)

	本部	短大	高校	計
教育職員	0人	36人	75人	111人
事務職員	7人	23人	9人	39人
その他職員	0人	6人	4人	10人
合計	7人	65人	88人	160人
(平均年齢)	(51.5歳)	(50.3歳)	(44.5歳)	(47.1歳)

## Ⅱ 平成28年度事業報告（主要事項）

### 〈法人本部〉

#### （1）四年制大学設置に係る寄附行為変更認可申請に関する業務の遂行

《時系列経緯》

- ①文部科学省を事前相談で訪問（平成28年8月、10月×2回、平成29年1月、3月）全5回。
- ②育英大学設置に係る寄附行為変更認可申請書の正本提出（平成28年10月28日）  
私立大学を設置する際には、寄附行為変更認可申請書の提出が義務づけられており、第1段申請書類を開設前々年度（平成28年度）の10月末までに提出。  
第2弾申請書類を開設前年度（平成29年度）の6月末までに提出（予定）。
- ③大学の設置に係る寄附行為変更認可申請に関しての審査参考資料の作成・提出。  
（平成29年1月25日）
- ④大学新設に係る学校法人の寄附行為変更認可申請に関する面接審査（平成29年2月24日）。学校法人分科会の3名の審査員（他学校法人の理事長、他大学学長、弁護士）から理事長、学長、監事を中心に質疑応答による面接審査を実施。
- ⑤面接審査の結果を踏まえた「審査意見」に対する回答文書の提出（平成29年4月21日）。
- ⑥大学設置に係る寄附行為変更の文部科学省（委員2名＋事務官2名）による実地調査を予定（平成29年5月30日の予定）。

法人本部並びに大学設置準備室を中心として、大学設置に関わる教職員が強固な連携を築き、申請書・資料の作成及び文部科学省への対応・回答等に全力を傾け、四大設置に向けて邁進してきた意義は、学園全体の将来にとって非常に大きい。

#### （2）監事体制の充実

監事の独立性、重要性がますます大きくなる中、監査の対象は財務部門だけでなく、学校の運営、学部・学科の新増設、学生・生徒の募集計画などの教育的な面も監査対象とすることが求められている。

監事は理事会・評議員会の開催時には事前に集合し、議案の説明を受け理解の深度を深めている。また、経営戦略会議にも出席し、学園計画への意見陳述や達成度の確認などを行っている。平成29年2月には学園内部監査を実施し、時間外労働の実態調査の結果を監事に報告、学園の実態・課題等を監事と情報共有するなど監査体制の充実を図る取り組みを実施。3月には監事監査の基本方針、監査方法などの平成29年度監事監査計画を作成した。

#### （3）法人本部・短大・高校の連携体制を強化

##### ①経営戦略会議の定例開催

本部・短大の枠組で2回開催、本部・高校の枠組で5回開催、本部・短大・高校の共同の枠組みで3回開催し全10回の戦略会議を開催。理事長を中心とした法人本部と教員管理職との連携・関係性を強化し、課題の解決及び学園の将来に向けた協議を実施。

##### ②事務連絡会議の定例開催

事務管理職による本部・短大及び本部・高校の枠組で構成。円滑な管理運営を促進するための報告・連絡・協議を行う場として、毎月一度の定例開催。平成28年度は11回実施。情報の共有化、意思の疎通、提案事項の協議・決定面で迅速な対応が可能となることに寄与している。



#### (4) 人事体制・組織力の強化

##### ①人事異動による組織の活性化

学園の最重要課題である四大設置に向けて、適材適所を念頭においた人事異動（設置準備室へ大学業務経験者を採用、四大設置に係る資金計画等の原案資料作成のため学校会計経験者を採用）を実施。

##### ②事務職員の能力開発の向上

外部セミナー・研修等への積極的な参加（のべ年間29回）を推進し、担当業務の知識、理解度を深化させている。報告書及び部署内ミーティングを通じて所属部署全体の業務能力の向上に繋げている。

#### (5) 法人本部の定例業務

##### ①広報「ぐんま育英」発行（年度内1回発行）

第54号〔平成27年度決算報告及び「育英短大だより」・「育英高校だより」などの現況を報告〕平成29年1月に発行。学園全体の広報としての役割を堅実に実行。学園ホームページも順次情報の更新を行い、広く社会に対し学園広報の強化を図っていく。

##### ②理事会・評議員会の開催

寄附行為に基づき、理事会を年間7回（常任理事会は3回）開催（予算・決算・規程の改正などの重要施策を審議）。評議員会を年間5回開催（予算・事業計画・寄附の募集等の議題は、あらかじめ意見を聴取）。

##### ③特別職報酬等審議会の開催

理事長が特別職報酬等審議会（平成29年3月開催）に諮問を行い、特別職（理事長、学園長、所属長〔学長、校長、本部長〕）の平成29年度報酬額を審議し・（平成29年3月開催）、答申に基づき特別職の報酬を決定。外部理事・評議員による審議形態は公明正大で且つ透明性を確保しており、毎年度開催の意義は大きい。

##### ④学園協力会の事業計画を実施

学園協力会会員企業（全81社）による総会を開催（7月）。平成27年度事業報告・決算報告及び平成28年度事業計画・予算を協議、原案どおり可決・承認。事業計画に則り、学園協力会ゴルフコンペ（11月）を榛名の森カントリークラブにて20名参加で実施。

## 〈育英短期大学〉

建学の精神と学科教育の目標・理念に即した教育を推進し、社会に有為な人材を輩出することに力を注ぐとともに、その更なる充実に向けた諸改革を推し進め、地域の信頼と評価を高めるよう努めた。また、その成果を広くアピールするきめ細かな学生募集広報活動を展開し、所期の学生数を確保して、教育基盤の確保と財政基盤の充実をはかるよう努めた。

卒業生の進路決定率は、保育学科100%、現代コミュニケーション学科96.6%を達成した。また、平成29年度入学生数は、保育学科252人（定員240人）、現代コミュニケーション学科98人（定員100人）、計350人（定員340人）となった。保育学科については、定員増（200人→240人）後、初めて定員を充足した。現代コミュニケーション学科については、定員まであと2名と迫ったものの未充足となった点に課題を残した。

### （1）学科教育の推進と改革

#### 〔保育学科〕

- ①「認定こども園」の発足に伴い、保育教諭へのニーズに対応すべく幼稚園教諭免許及び保育士資格の取得を基本として、質の高い保育者を養成することを目的として、保育者実践演習・教職実践演習などの保育者養成の中核となる講座を、より実践的な内容に改定し、実践的な保育技能を育成すると同時に、高いレベルの知識、技能と保育に関わる専門性を備えた保育者・幼児教育者の養成を進めた。
- ②就職対策特講などの講座を開講し、学生の基礎学力、社会人としての素養教育を充実させ、併せて就業力の育成に取り組んだ。さらに、専門就職に必要な適性検査対策の支援指導を進めた。

#### 〔現代コミュニケーション学科〕

- ①各コースの専門性をふまえてコミュニケーションの基礎を教育し、社会で必要な能力を修得させるとともに、インターンシップや海外留学プログラムへの参加及び各種資格取得を奨励、支援し、現代社会に適応可能な応用的、実務的能力を備えた人材の養成に取り組んだ。（海外留学プログラム参加学生=10週間（9月28日～12月8日）：4人・4週間（2月6日～3月3日）：2人）
- ②社会や学生のニーズ、個々の能力や適性に応じた柔軟な指導によって実際的で体系的な教育を実践し、将来に必要なコミュニケーション能力を養成することに加え、教育のさらなる向上を目的として、教育課程の見直しを行った。

#### 〔保育学科及び現代コミュニケーション学科〕

- ①教育課程について、体系的な編成と学修目標、学修内容、学修成果の明確化を図る観点からの改正案を策定し、所轄庁に学則変更届を提出した。
- ②教育職員免許法の改正に伴う「再課程認定」に対応するため、教職課程検討委員会を設置し、教職科目（授業内容）の見直しと担当教員の業績確認・整備に向けた取り組みを進めた。
- ③教育改革に取り組む教員・組織を財政的に支援することを目的とした教育改革推進奨励制度を活用して、教育改革に取り組むプロジェクトを公募し、学長裁定によって「保育者養成課程における学修成果の可視化に向けた指標策定の基礎的研究」などの8のプロジェクトを採択して財政支援を行い、学内の教育改革を支援し促進する取り組みを進めた。

## (2) 地域関係機関との連携

### [保育学科]

- ①学生の就職・実習先幼稚園、認定こども園、保育所、福祉施設との教育懇談会を開催（2月9日、63人参加）し、緊密な関係づくりを進めるとともに、実習等の教育内容の充実に努めて地域の付託に応えうる保育者教育を進めた。また、これらの施設の職員を対象とした公開講座、シンポジウムを開催した。

### [現代コミュニケーション学科]

- ①本学の教育や人材養成、採用に協力的なアライアンス企業と良好な関係を維持するとともに新規のアライアンス企業を開拓し、地域企業との相互関係によって連携を強化するとともに、その協力のもとに学内での企業セミナーを実施し、人事担当者や卒業生の講話を含めたキャリア教育を通して地域社会に必要とされる人材の養成に取り組んだ。

### [保育学科及び現代コミュニケーション学科]

- ①高崎市が主催する高崎市内私立大学・短期大学連携事例発表会に参画し、両学科の学生が、各学科の特色を生かして進めている地域貢献、地域連携に関する実践活動、調査活動の報告を行った（2月17日）。また、全国保育士養成協議会主催の学生研究発表会に参加し、代表学生による保育研究発表を行った（2月24日）。
- ②地域貢献事業として、「ぐんま県民カレッジ」と連携した4回の公開講座、小学生などを対象とした「スポーツ教室」、幼児教育研究所主催の2つのリカレント講座を企画、実施した（6月～3月）。

## (3) 主な教育活動

- ①新入学生のオリエンテーションを実施した（4月4～5日）。
- ②授業改善に資するための「学生による授業評価」を実施した（7月、1月）。
- ③図書館において、「読書推進コンクール」を実施して学生の読書を啓蒙、奨励する取り組みを進めた。
- ④保育学科1年生の演習授業の成果を発表する「保育フェスティバル」を開催した（2月5日）。
- ⑤現代コミュニケーション学科 卒業研究発表会を開催（2月2日）し、研究抄録集を発売した（3月11日）。

## (4) 主な研究・研修活動

- ①外部講師を招いてFD研修会を開催し、教員の教育研究、授業運営能力の向上に努めた（8月27日）。
- ②「学生による授業評価」による高評価教員を学長が顕彰する制度を導入し、授業改善の促進を図った。
- ③育英短期大学研究紀要第34号を発刊した（2月28日）。
- ④育英短期大学幼児教育研究所紀要第15号を発刊した（3月31日）。
- ⑤育英短期大学職員研修基本計画に即して、職員の外部研修機関への派遣、学内での定期合同研修の開催を含むSD研修活動を実践し、職員の専門知識の習得と変革に対する対応力の向上に努めた。

## (5) 学生支援活動

- ①GPAに基づく選考制度を導入して、成績優秀学生を選考し奨学金を授与した（授与

式 第23回：5月16日 第24回：11月24日)。

- ②教育・学生生活支援等の充実に資するための「学生満足度調査」を実施した(1月下旬)。特に、退学者を減少させる取り組みを進めたが、保育学科15名、現代コミュニケーション学科9名の退学者がでて、次年度に課題を残した。
- ③現代コミュニケーション学科1年生の就職対策セミナーを実施した(2月27～28日)。
- ④ハローワーク等の外部機関との連携を深め、高崎市内の本学を含む3短期大学で合同企業説明会を実施するなど就職、進学(編入学)に対する個別相談支援の強化を図った。
- ⑤4年制大学編入学対策講座、メディカルクラーク資格対策講座等を開講し、編入学、資格取得を支援した。
- ⑥経済的理由により修学の継続が困難な学生に対する授業料減免事業の補助枠(年間15名から20名に)を拡大し、修学支援の充実に図った。
- ⑦群馬県私立大学スポーツ大会の主幹校を務め、大会運営に携わり、本学学生を含む県内私立大学生のスポーツ課外活動を支援した(10月1～2日)。

#### (6) 入試広報活動

- ①入学案内・ホームページを更新した(5月)。
- ②キャンパス見学会を実施した(6月12日～9月4日の間、5回)。
- ③学校見学・相談会を実施した(12月4日、3月18日)。
- ④広報特別イベントを企画実施した(7月24日：保育進学相談特別イベント、5月29日：来て！見て！現コミ、6月25日：保護者も体験“現コミ”、7月24日：“現コミ”学生が作るオープンキャンパス)。
- ⑤高校訪問広報活動を組織化して展開した(5月11日～3月15日の間、6回、対象校195校)。
- ⑥保育学科において一般Ⅲ期入試を設定し、現代コミュニケーション学科においてはAOⅣ期入試までを設定するなど受験生に対して幅広く受験機会を設け、受験生の受験動向に即した多彩な入試日程を編成して入学生の確保に努めた。
- ⑦桔梗祭において、入試個別相談コーナーを設けて説明会を実施した。

#### (7) 高大連携の推進

- ①前橋育英高校の保護者対象説明会に教職員を派遣して短大教育の概要を紹介した他、高校に出向いての模擬授業の実施(11月・3月)、年間を通してグラウンド等の施設の相互利用などを進めて協力関係を深めた。
- ②前橋育英高校生徒の科目等履修生受け入れの検討・協議を進め、「高大接続における科目等履修生の受け入れに関する覚書」を取りまとめ、次年度から実施できる体制を整えた。
- ③前橋育英高校の他に、群馬県内13校、県外5校の高校に出向いて、模擬授業を実施して、本学の教育への理解を求める取り組みを進めた。

#### (8) 施設設備の整備

- ①学内ネットワーク設備の改善、教室の大型デジタルディスプレイの整備、図書館の蔵書管理や貸出返却、所蔵データのWeb公開等、業務全般を行うための図書館システム「情報館」のサーバおよびハードウェア機器の更新などを進めて教育環境の充実に図った。
- ②図書館に、外国雑誌のオンラインデータベース「ProQuest Research Library」を導入し、電子資料の充実に図った。
- ③学生が集える憩いの場の整備、安全管理による高木剪定、「飛翔の森」植栽整備等を

実施した。このほか、シンボルタワーである鐘の棟「カリヨンベル」を修復し、復元を図った。

(9) その他

①育英大学（仮称）設置認可申請事務とPR活動の実施

平成30年4月開学に向けた育英大学（仮称）の設置認可申請事務を遂行し、認可申請中の大学設置計画に係るPR活動（広報媒体への掲載、説明会等）を実施した。

②新「学務システム」を本格稼働させ、授業科目の履修、出席、成績等の一元管理を可能とし、かつ、学修ポートフォリオ等に基づく学生支援を可能とする体制を整えた。

③「認定こども園」の創設（27年4月）に対応するための「保育士資格取得特例講習（6月4日～12月17日）、及び「幼稚園免許取得特例講習」（8月17日～1月28日）を実施した。

④指定保育士養成施設としての自己点検を実施した（6月）。

⑤教員免許状更新講習を実施した（8月10・12日、17日～19日）。

⑥平成27年度自己点検・評価を実施し、同報告書を作成した（8月25日）。

⑦飛翔会（保護者会）の年2回の支部会に、教職員を派遣し、学科の教育内容、学生指導、進路支援などの状況について報告し、本学の教育に対する理解と協力を求める取り組みを進めた（7月、2月）。

⑧私立大学等経常費補助金に係る私立大学改革総合支援事業に応募し、「大学教育の質的転換」の項で採択され特別補助金の交付を受けた。

## 〈前橋育英高等学校〉

### (1) 教育活動（特別活動）

教科教育以外の分野において、多様なコース・生徒に対応するために、今年度も様々な活動を行った。

- ①学力向上のため、補習授業、土曜特別講義、大学受験特別講座等を実施（通年）
- ②大学進学を希望する生徒を対象として夏期進学合宿及び夏期集中講義を実施（夏期進学合宿：7月20日～23日、夏期集中講義：7月20日～8月19日）
- ③育英短大より講師を招き、Ⅲ類特別講義（連携講義）を実施（3月9日）
- ④育英メディカル専門学校より講師を招きⅣ類特別講義を実施（6月22日）
- ⑤保育科全学年を対象に、バレー観劇会を開催（7月12日）
- ⑥保育科3年間の教育成果の集大成として、保育科発表会を実施（1月26日）
- ⑦保育科3年生を対象に特別実習（幼稚園実習）を実施（2月7日～10日）
- ⑧1年生全クラスを対象に、大学見学会を実施（10月13日）

### (2) クラブ活動の地域連携

今年度は、各クラブがそれぞれの方法で地域との連携を高める努力を行った。

- ①柔道部：柔道の活性化と有望な選手の発掘・育成を目的として、中学生を対象に「育英杯争奪少年柔道大会」を開催（5月5日）
- ②サッカー部：県内外の高校との交流試合（プーマカップ）を主催し、群馬県のサッカー振興および技術力向上を図る（3月）
- ③陸上競技部：高校陸上部とは別に、日本陸上競技連盟に登録済みの誰でも加入でき生涯活動できる組織「育英クラブ」での活動を実施（通年）
- ④ダンス部：前橋シティーマラソン、七夕まつり、前橋祭り、JA収穫祭等のアトラクションにボランティアとして参加
- ⑤硬式野球部・バスケットボール部・剣道部・柔道部など各種運動部による地域清掃等のボランティア活動を実施（通年）
- ⑥クラブ活動指導者による講師派遣事業により、中学校・地域・企業の研修等に寄与（サッカー部、陸上部、硬式野球部）

### (3) 研修活動

教職員の資質向上・学校力の強化に向けて、校外の研修機会を活用した。

- ①県総合教育センターの研修講座である初担任研修や教科研修に教員を派遣（通年）
- ②日本私学教育研究所主催の私立学校初任者研修会や私学経営研修会に参加（通年）

### (4) 施設・設備の整備

今年度実施した主な整備事業は以下のとおり。

- ①教員用パソコンの配付（レンタル）（7月）
- ②視聴覚室照明機器のLED化（8月）
- ③四誠寮・誠心寮のトイレ改修工事（洋式化）（8月）
- ④同窓会ホールの建築（11月）

### (5) その他

- ①地域との連携の一環として地域懇談会を開催（6月30日、11月15日）
- ②前橋育英高校ホームページのリニューアル（7月）
- ③体育祭を開催（隔年開催）（10月25日）